

石川島記念病院

症例概要 患者：80代 女性

病名：左慢性硬膜下血腫

入院期間：令和7年9月～令和7年11月

経過：

令和7年9月に転倒し体動困難となり近医に救急搬送されたが異常なしと判断され帰宅。通院困難であったため当院訪問診療に紹介となった。翌週、訪問診療時に右上下肢麻痺が進行、歩行困難であることが判明し翌日に精査目的で入院、頭部CTにて左慢性硬膜下血腫の診断となり前医へ転院となった。同日左血腫除去術と洗浄ドレナージ術を受け9月末にリハビリ目的にて当院へ再入院、11月に歩行再獲得し自宅退院を果たした。

内容

8月ごろから転倒を繰り返し9月に再転倒し体動困難となり救急搬送されたが異常なしと判断され帰宅。通院も困難となりかかりつけ医に相談し当院の訪問診療に紹介となった。翌週、初回訪問すると運動麻痺は増悪、ベッド上ADLとなっていたため翌日に当院へ検査目的で入院となった。

検査目的での入院時は右上下肢に著明な運動麻痺を認めたが意識は清明で「また歩けるようになりたい」と強く訴えていた。入院時の検査の結果、左慢性硬膜下血腫の診断となりすぐに前医へ搬送・同日に手術の運びとなった。

9月末にリハビリ目的で当院へ再入院。運動麻痺はBr.stageV程度まで改善していたが8月から転倒を繰り返し活動量が低下していたこともあり廃用は著明で移動に介助を要していた。転院前の「また歩けるようになりたい」という思いは変わらずリハビリにも意欲的な姿勢であった。息子さんも仕事が多忙である中、介護保険の情報収集を行いご本人の自宅退院に向けて協力的な姿勢であった。

医師は再発予防と全身管理を行いご本人が不安を感じずリハビリに集中できるように支援した。リハビリでは歩行やADL自立に向けて個別リハビリに加えて自主トレーニングの提示と集団体操への参加を促した。看護師や介護士はご本人の体調管理に加えて心温まる声かけでご本人を励まし、ご本人のリハビリへの取り組みを後押しした。Our Teamでの取り組みにより、ご本人も笑顔でリハビリに取り組みADLは順調に拡大していった。

また、MSWと息子さんはお年寄りセンターで情報共有を進め、介護保険の区分変更の結果が出る前に自宅復帰できるようにケアマネ選定や退院前カンファレンスを実施した。



11月に屋内は独歩、屋外は歩行車を使用、自宅内ADLは自立し自宅復帰を果たした。現在は当院へ外来通院、当院訪問リハビリにてリハビリを継続、1月末に杖で外出できることを目指し楽しみながら努力を続けている。

患者さんご本人を中心に当院や連携病院等の地域包括システムが機能したことでの訪問診療が必要となっていた状況から外来通院ができるようになり患者さんの心豊かな人生を支援できた症例。

【関わり】

往診医：依頼に対応し往診、当院への検査入院と連携病院への転院指示

家族：情報収集や病院やお年寄りセンターと情報共有

医師：再発予防と全身管理

看護師と介護士：日々のケアに加えてご本人の精神的な支援

セラピスト：リハビリに加えてリハビリ時間外の運動の促し

MSW：入院・転院調整、家族や在宅チームとの情報共有